

1 派遣期日 令和5年8月23日(水) 13:30～15:30

2 派遣先 会場名：日本教育会館
所在地：東京都千代田区一ツ橋2丁目6-2
<http://www.jec.or.jp/>

3 研修内容

- | | |
|------------------|-----------------------------|
| 13:30～13:40(10分) | 1.はじめに ～自己紹介等～ |
| 13:40～14:10(30分) | 2.グループワーク(1) トーキングゲーム |
| (15分) | ①グループワーク |
| (15分) | ②実践紹介 |
| 14:10～14:20(10分) | 3.教材教具と手立て |
| 14:20～14:30(10分) | 4.これまでの実践で大切にしていること |
| 14:30～14:40(10分) | 5.スモールステップについて |
| 14:40～15:15(35分) | 6.グループワーク(2) コミュニケーションゲーム作り |
| 15:15～15:30(15分) | 7.Q&A |

4 感想

私は今回の先進校等視察において、東京都千代田区にある日本教育会館に赴き筑波大学附属大塚特別支援学校で研究主任兼教務主任をされている佐藤義竹先生の「子どもの心に響くコミュニケーションゲーム活用法」のセミナーに参加しました。

なぜ、私がこのセミナーを選んだのかということ、現在私は自閉症・情緒障害特別支援学級を担当しており、特別支援教育における自身のスキル向上、また自立活動内容の6区分27項目における⑥コミュニケーションについて深く学んでみたいと思ったからです。私の担当している学級の児童には、コミュニケーションがうまくとることができない児童が多数在籍しております。その児童のためにも今回のセミナーに参加して個に応じた指導ができるスキルをより一層身につけていきたいと思いました。

研修当日は、私のように小中学校で特別支援学級を担当している先生方が各地からいらっしゃいました。4人1組の座席に座り、座学やグループワーク・Q&Aを行いました。

セミナーの内容の1つ目は、佐藤先生の方から勤務されている筑波大学附属大塚特別支援学校の沿革や筑波大学附属大塚特別支援学校の支援部の取組み、佐藤先生の経歴といった説明がありました。筑波大学附属大塚特別支援学校では、2001年から各学部(小学部、中学部、高等部)に「自立活動担当者」を設置し同時に「自立活動部」が発足するなど、校内支援体制を確立しました。また、この「自立活動部」は後に「支援部」と変更し、文京区内の学校園への巡回相談や研修会の協力など多岐にわたって連携をしています。このような区内学校園と支援部の連携実績をもとに2017年には正式に文京区と包括的協定を締結し、文京区の特別支援教育専門というものが現在に確立されています。この説明を受けて私が感じたことは、学校単位での特別支援教育ではなく、文京区の取り組みを参考にしてそこから日立市の特別支援教育専門というものを確立していくのではないかと感じました。もちろん、日立市には日立特別支援学校という特別支援教育のセンター的機能を持つ学校があるので、まずは各学校が日立特別支援学校との連携を強化し、日立市の特別支援教育をもっと良くしていくことを考えていくのがいいのではないかと感じました。

2つ目はグループでトーキングゲームを行いました。このゲームでは(株)tobiracoさんが販売しているものを用いて実際にゲームを行いました。ルールは簡単でカードに書いてある質問に答えるというものでした。

このゲームをやった後に佐藤先生から、では実際に子どもたちにやらせてみるとどういったことがわかるのかという検証結果の説明を受けました。分析・評価の観点についてです。多様な実態をもつ子

どもたちがいることから3つに観点を絞ってやることがポイントとおっしゃっていました。「誰と」「聴く」「話す」です。特に「誰と」というのが重要で環境が変わること（話す相手が変わること）で子どもの変化が生じてくるので、そこでいかに気づけるかが大切だとおっしゃっていました。さらにゲームでのデータを数値化したものを示してより具体的に個別の支援に何が必要なのかをはっきりと明示してくれたので、とてもわかりやすかったです。

3つ目は教材教具と手立てについてです。佐藤先生はこれまでにインドネシア・韓国・中国といった国々の特別支援教育の取り組みの視察に何度も足を運ばれています。その中で海外の特別支援教育の教材や施設についての説明がありました。特にユニークだったのが中国の教材についてです。中国の教材教具は手作りがほとんどなのですが、その教材教具のほとんどが目に見える評価ができるものなのです。さらにおもしろかったのが、この教材教具が年に数回展示されるイベントがあり、評価が高い教材教具には作成した先生に賞金が出るというものでした。これは中国の国民性がうかがえるものでした。ただ、この説明をされて佐藤先生から教材教具と手立てについてこのような話をいただきました。「教材教具」というのは、教育活動で使用する物や道具。「手立て」というのは、活動目標や教育的配慮など、指導者・支援者の思いや意図が込められたもの。あくまでも、教材づくりも手立ても我々教師の願いをこめてやるものです。うまくできなくても次のステップに繋がる教材として試行錯誤を繰り返してやっていくことを忘れないでください。私はこの言葉を聞いて、絶対このことを忘れずに仕事に向かっていきたいと思いました。

4つ目は、佐藤先生のこれまでの実践で大切にしていることについて授業実践とコンサルテーションの観点からの話がありました。まず、授業実践からですが、佐藤先生が特別支援教育で大事に思っていることは、「具体的」「反復的」「段階的」「体験的」に授業展開をしていくことです。子どもにとって具体性のある題材であること、繰り返して経験を積み重ねること、スモールステップで考えること、子どもが自分で取り組むことができる学習内容であることを明確に位置づけるのが重要とおっしゃっていました。そのために「すき」「やってみたい」「したい」「なりたい」というスモールステップ・アプローチを掲げ、短長期展望や自己選択・自己決定、社会性を養うビジョンをもって実践してほしいとおっしゃっていました。コンサルテーションについてですが、あくまでも教師1人で支援していくのではなく、外部との連携・相談をしながら教師からの直接支援、外部からの間接支援をしていくことでよりよい支援ができるのではないかということです。文部科学省では特別支援教育のあり方について現在6つのカテゴリーに分けて支援事業を行っていますが、佐藤先生の学校のある文京区ではこれを具体化し、大きく3つに分けて区分しています。コンサルテーションは文京区との協定を結び指導支援や相談支援を行い、研修協力は他区のエデュケーション委員会から依頼を受けて実施する支援事業とし、相談・情報提供は海外子女教育振興財団受託の協力校として実施した支援事業としています。この話を聞いて授業実践についてはもっともっと子どものことを考えて取り組まないといけないと思いましたし、コンサルテーションについては継続的な取り組みなので、大人同士の関係の形成を少しずつ図ることが重要だと感じました。

最後は、スモールステップについてです。佐藤先生の大事にしていることは子どもの実態把握とそれに合わせた手立てです。スモールステップのイメージは階段を1段ずつあがるような感じですが、場合によっては追加の手立てを活用することで子どもが安全に安心して課題に取り組むことができるとおっしゃっていました。最後は時間がなくてこのことしかお話ししていただけませんでした。自分自身のスモールステップについての見方を再確認することができました。

以上のようにセミナーを受けてきましたが、とても充実したものでした。今回このような機会を提供していただきありがとうございました。また、機会がありましたら是非参加させていただきたいです。

そして、この研修で学んだことを活かして今後の学級経営や特別支援教育について取り組んでいきたいと思います。